

主要登場人物

ラインハルト・フォン・ローエングラム

(Kaiser Reinhard von Rohengramm)

銀河英雄伝説の主人公の一人。金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。戦争の天才。ローエングラム王朝初代皇帝。獅子帝と呼ばれることもある。帝国と同盟の一五〇年にわたる戦争に終止符を打ち、人類社会全体の統一を果たす。銀河帝国の支配者ゴールデンバウム王朝を打倒し、自ら戴冠してローエングラム王朝を樹てる。

ジークフリート・キルヒアイス

(Siegfried Kircheis Großherzog des Imperiums)

ラインハルトの腹心であり親友。ルビーを溶かして染めたような赤毛と感じの良い青い目の長身の若者。戦場で決して逆上らない、智と勇を兼備した帝国軍屈指の驍将としてラインハルトを補佐し続ける。元帥、帝国大公。

アンネローゼ・フォン・グリューネワルト

(Annerose Großherzogin von Grünewald)

ラインハルトの姉。一五歳の時、時の皇帝フリードリヒ四世の後宮に納められ、グリューネワルト伯爵夫人となる。そのフリードリヒ四世の死後、ラインハルトたちの許へ戻るが、その後、わけあってフロイデーンへと隠棲する。後、ラインハルトにより大公妃の称号を贈られる。

ヒルデガルト・フォン・マリィンドルフ

(Hildegard von Mariendorf-Fräulein Mariendorf)

マリィンドルフ伯爵家の一人娘。伯爵令嬢マリィンドルフ。通称ヒルダ。短くした、くすんだ金色の髪とブルー・グリーンの生き生きした瞳の、美貌の少年を思わせる女性。新王朝において、帝国軍幕僚総監に任じられ、皇帝首席秘書官を兼務する。ラインハルトのよき補佐者であり理解者。

オスカー・フォン・ロイエンタール

(Oskar von Reuentahl)

元帥・統帥本部総長。青い左目、黒い右目の金銀妖瞳の美男子。ミッターマイヤーと並んで『帝国軍の双璧』と称される名将。智と勇のバランスにおいては、ラインハルト、ミッターマイヤー、ヤンを凌ぎ、キルヒアイスに比肩すると評される。漁色家。乱世の梟雄と評する声もある。

ヘルムート・レンネンカンフ

(Hermut Lennenkamp)

帝国軍上級大将。堂々たる口髭が不似合いな、貧相な中年男。ただ、アニメの画を見るとJ・スターリンを連想してしまふ。バーラトの和約後、高等弁務官として同盟首都に駐留する。ヤンにはイゼルローンとライガールトリブラ宙域の戦いで連破される屈辱を味わった。別名、正義の人、レンネンカンフ大佐。

ヤン・ウェンリー

(Yang Wengli)

銀河英雄伝説の主人公の一人。同盟軍元帥。イゼルローン要塞司令官・兼・駐留艦隊司令官。歴史を学ぶ目的で同盟軍士官学校に入り、そのまま意に反する形で軍人となる。「エル・ファシル」で多くの民間人を救い、若き英雄となる。バーミリオン会戦の後、退役してフレデリカと結婚する。

フレデリカ・グリーンヒル・ヤン

(Frederica Greenhill Yang)

同盟軍大尉。知性と美貌を兼ね備た、ヤンの副官。バーミリオン会戦の後、退役してヤンと結婚し、F・G・ヤン夫人となる。

ユリアン・ミンツ

(Julian Minz)

トラバース法でヤンの養子になった、亜麻色の髪の、中々に端正な顔立ちの少年。ヤンの許で軍人を志し、フェザン駐在武官を経て今は大尉。地球教徒の秘密を求めて地球へ向かう。

ヨブ・トリューニョット

(Job Trüdnicht)

同盟最凶の政治家。原作通り、帝国に移り住みながら画策している模様。

アドリアン・ルビンスキー

(Adrian Rubinsky)

フェザン自治領主。黒狐。今は身を隠している。いつまで隠れている気なのかは知らない。

ドミニク・サンビエール

(Dominique Saint-Pierre)

ルビンスキーの愛人であり、歌手、ダンサー、女優。フェザンでも知られた酒場の経営者。赤茶色の髪の美女。ルビンスキーとともに帝国軍の目を逃れ、潜伏生活を送る。

ハイドリッヒ・ランゲ

(Heidrich Lang)

帝国内国安全保障局長。栄養の満ち足りた赤ん坊のような容貌に、唯一神へ語りかけるような荘重な重低音の声の所有者。

エルフリーデ・フォン・コールラウシュ

(Elfriede von Kohrausch)
リヒテンラーデ公爵の姪を母に、甥を父に持つ女性。ロイエンタールの生命を狙うが、囚われ、愛人として起居を共にする。クリーム色の髪、白く美しい手を持つ美人。(この人、なんで、ロイエンタールを狙うんでしょうか?)

ジョアン・レベロ

(Joan Lebello)
現職の自由惑星同盟最高評議会議長。同盟の元首本来は、有能で清廉な政治家で、反トリューニヒト派の急先鋒だった。バーラトの和約後、元首の地位についてからは帝国の右傾無形の圧力に苦しみ、国家を守るために迷走を繰り返す。

ホアン・ルイ

(Joan Luis)
レベロと共に反トリューニヒト派政治家の代表。サンフォード政権では人的資源委員長を務めたが、アムリッツアの敗戦で下野。その後は最高評議会議員。レベロの政権には加わっていないらしい。飄々とした人柄で、生真面目すぎるレベロよりもバーラトの和約後の同盟を主導する立場に向いていたかも知れない……というのが筆者感想。

ロックウェル

(Rockwell)
バーラトの和約後に同盟軍統合作戦本部長を引き継ぐ。トリューニヒト派軍人の代表格で、とかく

政治的な動きの多い軍人官僚。ヤンに対する様々な謀略をレベロに提案する。

マンフレート二世

(Kaiser Manfred von Goldenbaum II)
亡命帝。暗殺を免れるために自由惑星同盟に亡命していたという経歴があり、宇宙暦七〇七年に輿望を担って即位するも、翌年に暗殺され、帝国と同盟の和解への機運は瓦解する。その蔵書が帝国公文書館に所蔵されていたが、いつの間にかすべて破棄されており、疑問に思ったキルヒアイスが調査に着手するきっかけとなる。

【本編オリジナルキャラクター紹介】

グレーチェン・ヘルクスハイム

(Gretchen Theresa Herxheim, Margareta Therese von Herxheimer)
OVA『奪還者』に登場した、ヘルクスハイマー伯の娘で亡命者。亡命後、グレーチェン・ヘルクスハイムを名乗る。紫水晶の瞳と淡い金髪の、ピスク・ドールを思わせる端正な顔立ちの女性。本誌では大尉。バーミリオンの負傷のため入院中。

ヴェンツェル・ハインリッヒ・フォン・ベンドリング

(Wenzel Heinrich von Bendring)
同じくOVA『奪還者』で、最後にマルガレータを同盟へ亡命させる上での後見人として、彼女に同行した、伯爵家の三男坊。本誌では、中佐として帝国高等弁務官への同盟軍側連絡士官を務めている。

シャルロッタ・ゼーダーシュトレーム

(Charlotte Söderström/Lotti Söder)

同盟軍士官学校でのグレーチェンの同期生。通称ロッティ・ゼーデル(Lotti Söder)。黒髪・黒瞳の眼鏡娘。グレーチェンよりも実年齢二歳年上、グレイチェンの親友。本誌では中尉、統合作戦本部付。

フランツベーター・ヨハネス・パウアーシュミット

(Franzpete Johannes Bauerschmitt)
帝国宰相府付き宿直医で、国立オーティン文理科大学医学部准教授。膠原病の専門研究者としての実績もあり、同時に臨床医としても優秀な経歴を持った若い医師。マリィンドルフ伯爵家の支援で、未知の疾病研究に取り組んでいる。

コルネリア・ゲルトルデ・フォン・シュミットパウアー

(Cornelia Gertrude Vizegäbin von Schmittbauer)
シュミットパウアー子爵家の最後の当主で故人。子爵夫人。通称ゲルタ。シュミットパウアー家始祖ヨーゼフはルドルフの腹心であり、創業への貢献に対し、ルドルフは『シュミットパウアーの言葉を軽く聞かざるべし』の遺訓を遺し、シュミットパウアー一族には『帝室のために身を挺せよ』の言葉を与える。ゲルタは、その言葉を最後まで実践した、シュミットパウアー一族の最後の一人。ヒルダの友人でもあった。

ティフリー・ブランドン

(Tiffany Brandon)
同盟軍士官学校でのグレーチェンの同期生。クルーカットの髪型。長身で頑丈な体つきの生真面目な若者。帝国軍の捕虜となっていたが、解放され、同盟首都へ帰還する。

コティ

伍長 巡航艦『ハリスバーク』搭乗。グレーチエンとは共に帝国軍のフェザーン侵攻への強行偵察を行った。

狼犬

艶やかな長い黒髪と、ほとんど白目の見えないほどに大きな黒瞳の持ち主。フェザーンの高級住宅街に、彼女を『奥様』あるいは『お嬢さま』と呼ぶ老執事と暮らしている。

ミハエル・タウゼントシュタイン

帝国・ラストエンテ星系出身の大尉。キルヒアイスの副官。ある事件でウジを助け、友人となる柔らかな茶色の髪、柔和な外貌の青年だが、有能でキルヒアイスの信頼を得、新たに設けられる帝国軍大学の受験が決まっている。

ウルシュラ・ザーネヘルシュテラー

ケーキ職人の女性。ミハエルの婚約者。愛称ウジィ。菓子職人の専門職人資格を持ち、今は帝都の有名なホテルで働いている。濃い金褐色の髪とこぼれ落ちそうに大きな、青みの強い緑の目の持ち主。

ローザ・フォン・ローゼンマイヤー

帝立大学文学部帝国国史学教授。帝国国史の権威物静かだが、悠揚迫らぬ迫力のある女性。

マリア・アントニア・フォン・ロートリンゲン

ロートリンゲン伯爵夫人。国立文理科大学理学部数学科教授。七〇歳を超えた、すっかり銀髪に変わった金髪の、端正な老貴婦人。マリンドルフ伯爵家の血縁者であり、望まれてロートリンゲン伯爵家を嗣ぐ。ラストエンテ星系の多国語研究財団の理事長を務める。ミハエルの後見人。

ギレンセン

帝国軍親衛隊大尉。

アルベルト・ベルツ・ミュラー

帝国辺境星系フェールの惑星ヴィークで、星間商社ベルツ・ミュラー・ウント・ライヘンバッツハ商会を営む男性。肩幅が広く、真っ白になった髪が頬から顎につながっているので顔立ちが角張って意志的。事故で脚の自由を失っている。

フロリアン・ゲルハルト・ライヘンバッツハ

ベルツ・ミュラー・ウント・ライヘンバッツハ商会の社員。アルベルト・ベルツ・ミュラーの親族で後継者候補。かつてのライヘンバッツハ伯爵の末裔で、白皙の肌、長めに切り揃えた黒い前髪の下で、生気に満ちた黒瞳が生き生きと踊って見える、中々の美青年。

レヴィン・フォン・ファン・デア・ヴァルト

新任の国務次官。官僚出身。

リーゼロッテ・フリーデ・フォン・シュミットバウアー

シュミットバウアー家の第二三代当主で、元々女性。詳細は不明。

レオンハルト・フォン・シュミットバウアー

シュミットバウアー族の一人。亡帝メンフリート二世と共に自由惑星同盟へ亡命した……らしい。

マティアス・ラーゼン

帝国軍中尉。ミハエル・タウゼントシュタイン大尉の後任としてキルヒアイスの副官となる予定。